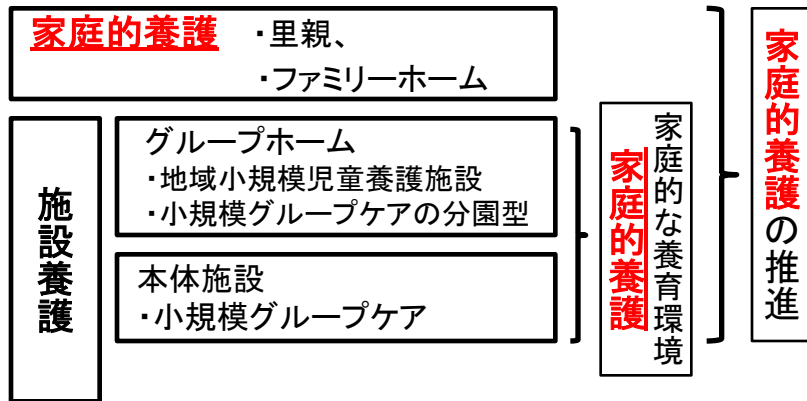


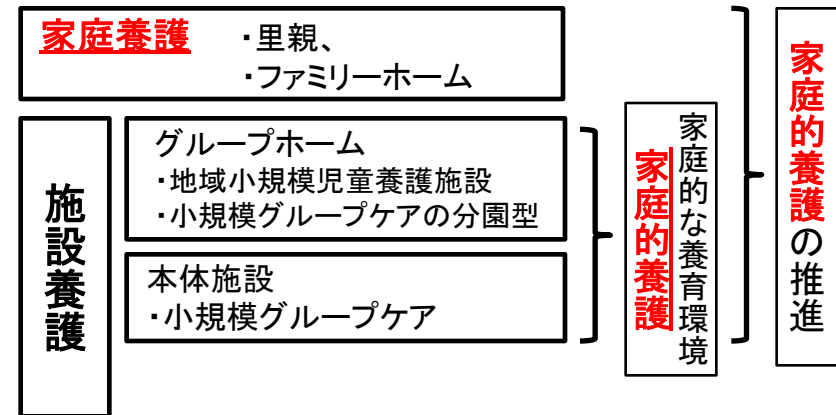
「家庭的養護」と「家庭養護」の用語の整理について

これまで、「家庭的養護」と「家庭養護」の言葉を区別してこなかったが、家庭養育という用語との関係や、国連の代替的養護の指針での用語の区別などを踏まえ、今回の指針では、「施設養護」に対する言葉としては、里親等には「家庭養護」の言葉を用いるよう、用語の整理を行う。

＜課題と将来像における用語の整理＞



＜指針における用語の整理＞



(参考)社会的養護の課題と将来像(本文抜粋)

(3) 社会的養護の基本的方向 ①家庭的養護の推進

- ・上記の子どもの養育の特質にかんがみれば、社会的養護は、できる限り家庭的な養育環境の中で、特定の大人との継続的で安定した愛着関係の下で、行われる必要がある。
- ・このため、社会的養護においては、原則として、家庭的養護(里親、ファミリーホーム)を優先するとともに、施設養護(児童養護施設、乳児院等)も、できる限り家庭的な養育環境(小規模グループケア、グループホーム)の形態に変えていく必要がある。
- ・社会的養護が必要な子どもを、養育者の住居で生活をともにし、家庭で家族と同様な養育をする里親やファミリーホームを、家庭的養護と呼ぶ。
- ・一方、小規模グループケアやグループホームは、施設養護の中で家庭的な養育環境を整えるものであるが、養育者が交代制である点で、家庭的養護とは異なる。しかし、「家庭的養護の推進」という言葉は、施設養護から家庭的養護への移行のほか、当面、施設養護もできる限り家庭的な養育環境の形態に変えていくことを含めて用いることとする。

○里親及びファミリーホームは、保護の必要な児童を養育者の家庭に迎え入れて養育を行う「家庭養護」であるという理念を明確にする。

- このため、「家庭養護」と「家庭的養護」の用語を区別し、
 - ・「施設養護」に対する言葉としては、里親等には「家庭養護」を用い、
 - ・また、施設において家庭的な養育環境を目指す小規模化の取組には、「家庭的養護」を用い、
 - ・両者を合わせて言うときは、これまで通り、「家庭的養護の推進」を用いることとする。

- 国連の代替的養護の指針との関係では、
 - ・family-based care が「家庭養護」
 - ・family-like care が「家庭的養護」

○昭和23年の「家庭養育運営要綱」及び昭和63年の「里親等家庭養育運営要綱」では、里親を「家庭養育」としていた。

(参考)「児童の代替的養護に関する指針」抜粋 (2009年(平成21年)12月国連総会決議)

- 国連指針では、residential care (施設養護) と family-based care (家庭を基本とする養護＝家庭養護) が相互に補完しつつ児童のニーズを満たしているとしつつ、施設養護は必要な場合に限られるべきこと、幼い児童の代替的養護は原則として family-based care で提供されるべきこと、大規模な施設養護は廃止していくべきこと、施設養護は可能な限り家庭や少人数に近い環境(a setting as close as possible to a family or small group situation)であるべきとしている。
- 国連指針では、family-based care として、① Kinship care、② Foster care、③ Other forms of family-based care を挙げている。また、family-based care と、family-like care を区別している。

原文	家庭福祉課仮訳 (平成23年4月)
<p>21. The use of <u>residential care</u> should be limited to cases where such a setting is specifically appropriate, necessary and constructive for the individual child concerned and in his/her best interests.</p>	<p>21. <u>施設養護</u>の利用は、かかる養護環境が個々の児童にとって特に適切、必要かつ建設的であり、その児童の最善の利益に沿っている場合に限られるべきである。</p>
<p>22. In accordance with the predominant opinion of experts, alternative care for young children, especially those under the age of 3 years, should be provided in <u>family-based settings</u>. Exceptions to this principle may be warranted in order to prevent the separation of siblings and in cases where the placement is of an emergency nature or is for a predetermined and very limited duration, with planned family reintegration or other appropriate long-term care solution as its outcome.</p>	<p>22. 専門家の有力な意見によれば、幼い児童、特に3歳未満の児童の代替的養護は<u>家庭を基本とした環境</u>で提供されるべきである。この原則に対する例外は、兄弟姉妹の分離の防止を目的とする場合や、かかる代替的養護の実施が緊急性を有しており、又はあらかじめ定められた非常に限られた期間である場合であって、引き続き家庭への復帰が予定されているか、又は結果として他の適切な長期的養護措置が実現する場合であろう。</p>
<p>23. While recognizing that <u>residential care facilities</u> and <u>family-based care</u> complement each other in meeting the needs of children, where <u>large residential care facilities</u> (institutions) remain, alternatives should be developed in the context of an overall deinstitutionalization strategy, with precise goals and objectives, which will allow for their progressive elimination. To this end, States should establish care standards to ensure the quality and conditions that are conducive to the child's development, such as <u>individualized and small-group care</u>, and should evaluate existing facilities against these standards. Decisions regarding the establishment of, or permission to establish, new residential care facilities, whether public or private, should take full account of this deinstitutionalization objective and strategy.</p>	<p>23. <u>施設養護</u>と<u>家庭を基本とする養護</u>とが相互に補完しつつ児童のニーズを満たしていることを認識しつつも、<u>大規模な施設養護</u>が残存する現状において、かかる施設の進歩的な廃止を視野に入れた、明確な目標及び目的を持つ全体的な脱施設化方針に照らした上で、代替策は発展すべきである。かかる目的のため各国は、<u>個別的な少人数での養護</u>など、児童に役立つ養護の質及び条件を保障するための養護基準を策定すべきであり、かかる基準に照らして既存の施設を評価すべきである。公共施設であるか民間施設であるかを問わず、施設養護の施設の新設又は新設の許可に関する決定は、この脱施設化の目的及び方針を十分考慮すべきである。</p>

原文	家庭福祉課仮訳（平成23年4月）
<p>29. For the purposes of the present Guidelines, and subject, notably, to the exceptions listed in paragraph 30 below, the following definitions shall apply:</p> <p>(c) With respect to the environment where it is provided, alternative care may be:</p> <p>(i) <u>Kinship care</u>: <u>family-based care within the child’s extended family or with close friends of the family known to the child, whether formal or informal in nature;</u></p> <p>(ii) <u>Foster care</u>: situations where children are placed by a competent authority for the purpose of <u>alternative care in the domestic environment of a family other than the children’s own family that has been selected, qualified, approved and supervised for providing such care;</u></p> <p>(iii) <u>Other forms of family-based or family-like care placements;</u></p> <p>(iv) <u>Residential care</u>: care provided in any <u>non-family-based group setting</u>, such as places of safety for emergency care, transit centres in emergency situations, and all other short- and long-term residential care facilities, including group homes;</p> <p>(v) Supervised independent living arrangements for children;</p>	<p>29. 本指針において、とりわけ下記第30項に列挙した例外に反しない限り、以下の定義が使用される。</p> <p>(c) 提供される場所という点で言うと、代替的養護は以下の形式を取り得る。</p> <p>(i) <u>親族による養護</u>： その性質上公式であるか非公式であるかを問わず、児童の拡大家族内で、又は児童の知っているその家族の親しい友人によって行われる家族を基本とした養護。</p> <p>(ii) <u>里親による養護</u>： 所轄官庁によって、児童がその児童自身の家族以外の、養護提供にあたって選抜され、資格を付与され、承認され監督を受ける家族の家庭環境に置かれ、代替的養護を受ける状況。</p> <p>(iii) <u>家庭を基本とした、又は家庭に類似したその他の形式の養護の実施。</u></p> <p>(iv) <u>施設養護</u>： 緊急時養護を提供する児童保護施設、緊急事態における一時保護所、その他全ての短期・長期の施設養護による施設(グループホームを含む)など、<u>家庭を基本としない集団環境</u>で提供される養護。</p> <p>(v) 児童のための監督付きの独立居住体制。</p>
<p>123. <u>Facilities providing residential care</u> should be small and be organized around the rights and needs of the child, in <u>a setting as close as possible to a family or small group situation</u>. Their objective should generally be to provide temporary care and to contribute actively to the child’s family reintegration or, if this is not possible, to secure his/her stable care in an alternative family setting, including through adoption or kafala of Islamic law, where appropriate.</p>	<p>123. <u>施設養護を提供する施設</u>は、児童の権利とニーズが考慮された小規模で、<u>可能な限り家庭や少人数グループに近い環境</u>にあるべきである。当該施設の目標は通常、一時的な養護を提供すること、及び児童の家庭への復帰に積極的に貢献することであり、これが不可能な場合は、必要に応じて例えば養子縁組又はイスラム法のカファールなどを通じて、代替的な家庭環境における安定した養護を確保することであるべきである。</p>